



新古茶道具宮原の宮原と申します。

平素はご愛顧を賜わり、厚く御礼申し上げます。

また初めてカタログを手に取っていただきました方も、お読みいただき誠にありがとうございます。

当店は、古儀茶道藪内流の茶道具を中心に扱う茶道具店でございます。もちろん他流のお客さまにも楽しんでいただけますよう誠意努力させていただきますので、何卒御用命のほどよろしくお願ひいたします。

カタログ内に気になるお道具がございましたら、電話(ショートメールも可)、メールなどにてご連絡くださいませ。

ご連絡いただいた商品から対応させていただきます。

また、展示会以外のお日にちにてご来店希望の際は、事前に来店日時をご予約いただきますようお願い申し上げます。



店舗情報 新古茶道具宮原

新吉宗造六吉宗
住所: 京都市下京区西洞院通正面下る鍛冶屋町439-1

住所：京都市下京区四
TEI：090-9980-6630

MAIL :sadoqumiyahara@gmail.com

蔵内流の茶道具につきまして、販売・買取・修理など幅広く対応させていただけております。



色絵梅に遠山絵茶碗 阿山作



京焼の陶工である通次阿山作の梅に遠山絵の色絵茶碗になります。利休梅と遠山の季節の意匠のお茶碗になります。

共箱 直径約12.5cm 高さ約8cm
¥30,000(税込)

御本立鶴茶碗 高橋道八作



京焼の陶工である高橋道八作の御本立鶴茶碗になります。明治期の6代の作で丸みを帯びた筒茶碗になります。鶴の絵と喜の文字が描かれたおめでたい一椀です。

共箱 直径約11cm 高さ約9.3cm
¥30,000(税込)

御本呉器茶碗



御本呉器茶碗になります。呉器茶碗とは深い碗形で裾が開いた高い高台を持つ禪宗寺院の「御器」(食事用の椀)に似ているため着いた名称だといわれています。

桐箱 直径約12.5cm 高さ約8.5cm
¥88,000(税込)

吉野桜茶碗 永楽善五郎作 透月斎箱



京焼の名工である永楽善五郎作の吉野桜絵茶碗で蓋内流説え印の押された一椀です。楠木正成公の600年祭記念で作られた一椀のようですが蓋内流11代透月斎宗匠の箱書きがされています。

共箱 直径約12.2cm 高さ約6.5cm
¥65,000(税込)

菊桐絵茶碗 六兵衛作 透月斎箱



菊桐絵茶碗で京焼の名工である清水六兵衛の作となっております。流祖蓋内刻仲が豊臣秀吉より賜った絵唐津茶碗が本歌であり蓋内流では大変珍重された意匠のお茶碗です。蓋内流11代透月斎宗匠の箱となっております。

共箱 直径約11cm 高さ約8.3cm
¥80,000(税込)

志賀焼若松絵茶碗 銘「蓬莱」休々斎箱



志賀焼きの若松絵茶碗で蓋内流10代の休々斎宗匠が銘を「蓬莱」とされています。志賀焼は江戸時代に長崎県対馬、志賀でやかれた焼き物であり初期は雑器を焼かれていたが後に高麗の写しを焼くようになった窯元です。新渡の染付の写しなども多く作られました。

共箱 直径約11.3cm 高さ約7.5cm
¥120,000(税込)

仁清写八重桜茶碗 阿山作



京焼の陶工である通次阿山作の仁清写し八重桜茶碗になります。桜の枝の美しい色絵のお茶碗になります。

共箱 直径約12cm 高さ約7.8cm
¥30,000(税込)

古代唐草文様天目茶碗 本願寺窯



古代唐草文様の天目茶碗で本願寺窯で焼かれたお茶碗のようです。言葉の通り古くから用いられる唐草を色絵で描かれています。

共箱 直径約12.8cm 高さ約7cm
¥20,000(税込)

京唐津塩筈形茶碗



京唐津の塩筈形茶碗になります。肌や釉薬は唐津の風情を携えていますが高台が元の唐津と違い渦高台を成しています。唐津の茶碗の高台は三日月高台が一般的です。塩筈(しおげ)とは李朝の塩や調味料を入れた小壺の形の名称です。金直しあり。

桐箱 直径約10.5cm 高さ約8cm
¥35,000(税込)

鞍馬焼茶碗 銘「うす桜」透月斎箱



鞍馬焼の茶碗で蓋内流11代透月斎宗匠が銘を「うす桜」とされています。京都の鞍馬でやかれた焼き物で楽に近い柔らかい土のお茶碗です。淡い赤の色合いが桜のグラデーションのようで銘もとても合っています。

共箱 直径約14.3cm 高さ約5.8cm
¥58,000(税込)

一元黒茶碗 銘「冬籠り」節庵箱



一元作の黒茶碗で蓋内流9代宝林斎宗匠の次男である蓋内節庵宗匠が銘を「冬籠り」とされています。一元は楽4代一人の子で玉水焼という楽焼の初代になります。手に收まりの良い茶碗で冬籠りの銘が似合う一椀です。黒漆での共直しあり。

共箱 直径約10.5cm 高さ約7.5cm
¥120,000(税込)

珠光青磁茶碗 銘「吸江」竹猗箱



珠光青磁のお茶碗で蓋内流8代真々斎竹猗宗匠が銘を「吸江」とされています。珠光青磁は村田珠光が好んだとされる中国南宋時代の素朴な青磁茶碗の総称で淡い黄褐色や灰緑色の釉薬と内外の櫛目文様が特徴です。

共箱 直径約16cm 高さ約7.2cm
¥480,000(税込)



膳所焼金彩若松茶碗 陽炎園製 青々斎箱



膳所焼、陽炎園製の金彩若松絵茶碗で蓋内流13代青々斎宗匠が箱書きをされています。金彩の松の絵と茶碗の内側にも金箔の箔張りがなされたおめでたい意匠の一碗です。

共箱 直径約11.8cm 高さ約7.8cm
¥33,000(税込)



午年御本茶碗 清水六兵衛作



京焼の名工である5代清水六兵衛作の午の絵御本茶碗になります。5代の六兵衛の作品は多岐にわたり御本や三島など様々な技法を使いこなしています。

共箱 直径約12.6cm 高さ約6.5cm
¥20,000(税込)



掛馬絵茶碗 川上拙以画 川上徹作



日本画家で蓋内流12代青々斎宗匠の絵の師でもあった川上拙以筆の掛け馬絵茶碗になります。茶碗の作者である川上徹は拙以の子であり、親子合作のお茶碗になります。

共箱 直径約12cm 高さ約7.6cm
¥35,000(税込)



時代安南染付茶碗



染付の安南茶碗になります。安南(あんなん)とは旧くはベトナムの事を指し、茶道具でいわれる安南茶碗は現地で多く焼かれた吳須という青い釉薬に白地の焼き物になります。

桐箱 直径約14.4cm 高さ約6.8cm
¥88,000(税込)



無学和尚手造茶碗 銘「寒牡丹」休々斎箱



蓋内流10代休々斎宗匠が箱書きをされている無学和尚手造の赤茶碗です。休々斎宗匠が銘を「寒牡丹」とされています。無学宗衍(1721-1791)和尚は大徳寺第378世の僧侶で千家の七事式の監修もされました。彫銘、金繕いあり。

桐箱 直径約12.7cm 高さ約8.6cm
¥100,000(税込)



萩焼茶碗 銘「うちで」桂陰斎箱



萩焼の茶碗で蓋内流7代 桂陰斎竹翁宗匠が銘を「うちで」とされています。少し丸みを帯びた三角に近い州浜の形状です。銘も形状からなのでしょうか。横から見たさまも打ち出の小づちに見えなくもありません。大変おめでたい銘になります。

共箱 直径約12.3cm 高さ約7.8cm
¥120,000(税込)



色絵橋柳茶碗 平安美晴作

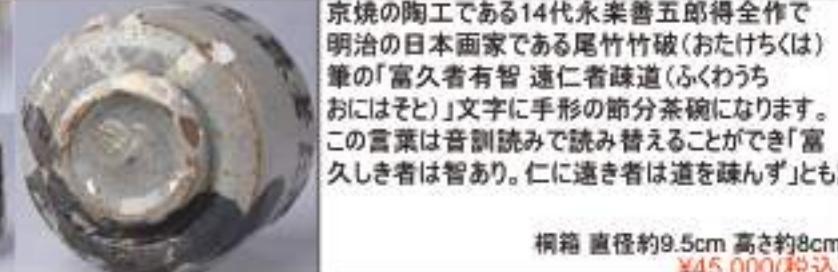


色絵の橋柳茶碗で京焼の陶工である平安美晴作となっております。金銀彩を惜しげなく使った美しい蒔絵がなされています。

共箱 直径約12.8cm 高さ約8cm
¥30,000(税込)



竹破筆 節分文字茶碗 永楽作

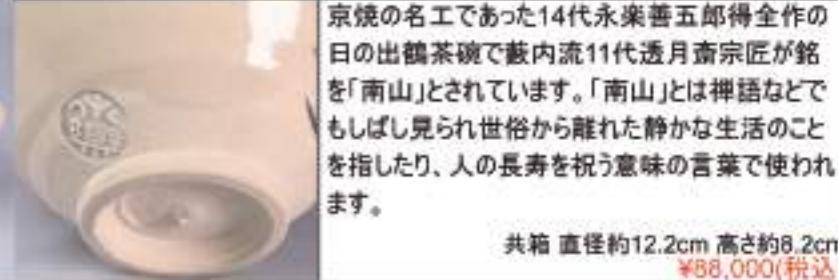


京焼の陶工である14代永楽善五郎得全作で明治の日本画家である尾竹竹破(おたけちくは)筆の「富久者有智 速仁者疎道(ふくわうちおにはそと)」文字に手形の節分茶碗になります。この言葉は音訓読みで読み替えることができ「富久しき者は智あり。仁に速き者は道を疎んず」とも読みます。

桐箱 直径約9.5cm 高さ約8cm
¥45,000(税込)



日乃出鶴茶碗 銘「南山」永楽得全作 透月斎箱

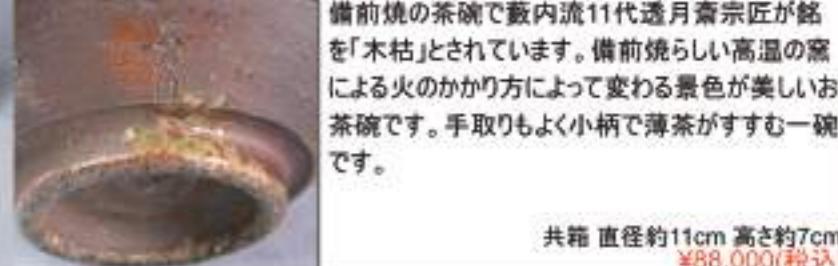


京焼の名工であった14代永楽善五郎得全作の日の出鶴茶碗で蓋内流11代透月斎宗匠が銘を「南山」とされています。「南山」とは禅語などでもしばし見られ世俗から離れた静かな生活のことを指したり、人の長寿を祝う意味の言葉で使われます。

共箱 直径約12.2cm 高さ約8.2cm
¥88,000(税込)



備前焼茶碗 銘「木枯」透月斎箱

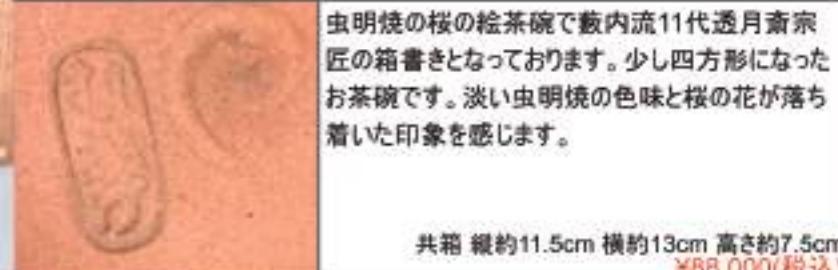


備前焼の茶碗で蓋内流11代透月斎宗匠が銘を「木枯」とされています。備前焼らしい高温の窯による火のかかり方によって変わる景色が美しいお茶碗です。手取りもよく小柄で薄茶がすすむ一碗です。

共箱 直径約11cm 高さ約7cm
¥88,000(税込)



虫明焼桜の絵茶碗 透月斎箱

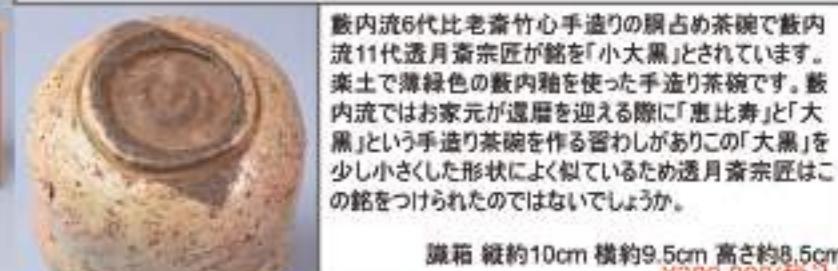


虫明焼の桜の絵茶碗で蓋内流11代透月斎宗匠の箱書きとなっております。少し四方形になったお茶碗です。淡い虫明焼の色味と桜の花が落ち着いた印象を感じます。

共箱 縦約11.5cm 横約13cm 高さ約7.5cm
¥88,000(税込)



比老斎手造胴占め茶碗 銘「小大黒」



蓋内流6代比老斎竹心手造りの胴占め茶碗で蓋内流11代透月斎宗匠が銘を「小大黒」とされています。素土で薄緑色の蓋内釉を使った手造り茶碗です。蓋内流ではお家元が還暦を迎える際に「恵比寿」と「大黒」という手造り茶碗を作る習わしがありこの「大黒」を少し小さくした形状によく似ているため透月斎宗匠はこの銘をつけられたのではないかでしょうか。

桐箱 縦約10cm 横約9.5cm 高さ約8.5cm
¥380,000(税込)



椿蒔絵白塗棗 宗利作

加賀の蒔絵師である西村宗利作の椿蒔絵の白塗り中棗になります。花芯の部分に蝶細を施した細やかなお棗です。

共箱 直径約6.7cm 高さ約6.5cm
¥25,000(税込)



吉祥丸紋大棗 宗尹作

吉祥丸紋の大棗で山中塗りの塗師である中村宗尹作になります。鶴や松、小槌に砂金袋などの文字通りおめでたい意匠尽くします。

共箱 直径約7.3cm 高さ約7.3cm
¥20,000(税込)



出世柳蒔絵棗 薫和作

塗師の薰和作の出世柳蒔絵棗になります。出世柳は目張り柳とも呼ばれ早春のころ芽が萌え出ようとする柳のことを言います。

共箱 直径約6.7cm 高さ約6.5cm
¥25,000(税込)



独楽塗棗 橋口宗栄作

蔵内流の塗師である橋口宗栄作の独楽塗り棗になります。当代宗栄の作になります。

共箱 直径約6.7cm 高さ約6.5cm
¥55,000(税込)



雪花蒔絵平棗 橋口宗栄作 猪々斎箱

蔵内流の塗師である橋口宗栄作の雪花蒔絵平棗になります。蔵内流12代猪々斎宗匠の箱書きとなっております。

共箱 直径約8.5cm 高さ約5.5cm
¥100,000(税込)



皺竹面取中次 透月斎在判・箱

皺竹(しづちく)面取中次で蔵内流11代透月斎宗匠が底に在判と箱書きをされています。皺竹は竹の皮の表面に縦にしわの入る種類の竹で茶杓などに珍重されます。茶器につかわれることは珍しくあります。蔵内流らしさのあふれる薄茶器です。

共箱 直径約5.5cm 高さ約5.7cm
¥120,000(税込)



梅中次 久須来郎作 銘「鶯宿」隨竹庵箱

大阪の指物師で休々斎、透月斎宗匠時代の蔵内流の指物を多く手掛けた久須来郎作の梅中次になります。蔵内流の分家である隨竹庵の箱で銘を「鶯宿(おうしゆく)」とされています。

共箱 直径約6.7cm 高さ約7.7cm
¥40,000(税込)



福の字朱棗 橋口宗栄作 猪々斎在判・箱

蔵内流の塗師である橋口宗栄作の福の字朱棗で蔵内流12代猪々斎宗匠の在判・箱となっております。

共箱 直径約6.5cm 高さ約6.7cm
¥88,000(税込)



寿文字朱棗 橋口宗栄作 青々斎在判・箱

蔵内流の塗師である橋口宗栄作の寿文字朱棗で蔵内流13代青々斎宗匠の好みになります。「ワシントン茶道展のため是を好む」と箱書きに残されています。

共箱 直径約6.5cm 高さ約6.7cm
¥100,000(税込)



一閑張籠 橋口宗栄作 猪々斎在判・箱

蔵内流の塗師である橋口宗栄作の一閑張りの立籠蒔絵棗になります。蔵内流12代猪々斎宗匠が棗の蓋裏に在判を朱で残しており箱書きもされています。

共箱 直径約7.2cm 高さ約7cm
¥100,000(税込)



乾漆糸手毬茶器 透月斎在判・箱

乾漆の糸手毬茶器で蔵内流11代透月斎宗匠が内側に在判をされており、銘を「初春」とされています。内銀地で透月斎宗匠の在判が映えます。

共箱 直径約6.8cm 高さ約6.5cm
¥120,000(税込)



宝林棗 橋口宗栄作 透月斎在判・箱

蔵内流の塗師である橋口宗栄作の宝林棗です。蔵内流11代透月斎宗匠の好み棗で宝尽くしの意匠で蓋裏に大きく「寶(たから)」の文字が描かれています。棗底に透月斎宗匠の在判がされています。

共箱 直径約7.4cm 高さ約6.8cm
¥200,000(税込)





龍宝山尻張釜 和田美之助作

龍宝山尻張釜で京都の釜師である和田美之助の作となっております。龍宝山は大徳寺の山号のことです。

共箱 直径約24cm 高さ約24cm 口径約11cm
¥45,000(税込)



利休好写丸釜 12代忠三郎作

利休好みの丸釜の写しで名古屋の釜師である12代加藤忠三郎作の炉釜になります。

共箱 直径約24cm 高さ約24cm 口径約11.5cm
¥50,000(税込)



野馬釜 多茂都作

鎌物師の般若多茂都作の野馬釜になります。野馬とは野生の馬という意味で生気にあふれる様子で描かれます。芦屋の古作の釜から使われ続けている意匠です。

共箱 直径約25cm 高さ約24cm 口径約14cm
¥50,000(税込)



法華寺釜 名越作 寒蘿箱

名越昌晴作の法華寺釜で13代の宮崎寒蘿の識箱となっております。名越昌晴(なごしまさる)は、江戸時代初期の釜師で、江戸名越家10代にあたり通称を弥五郎とされました。広口の釜になります。

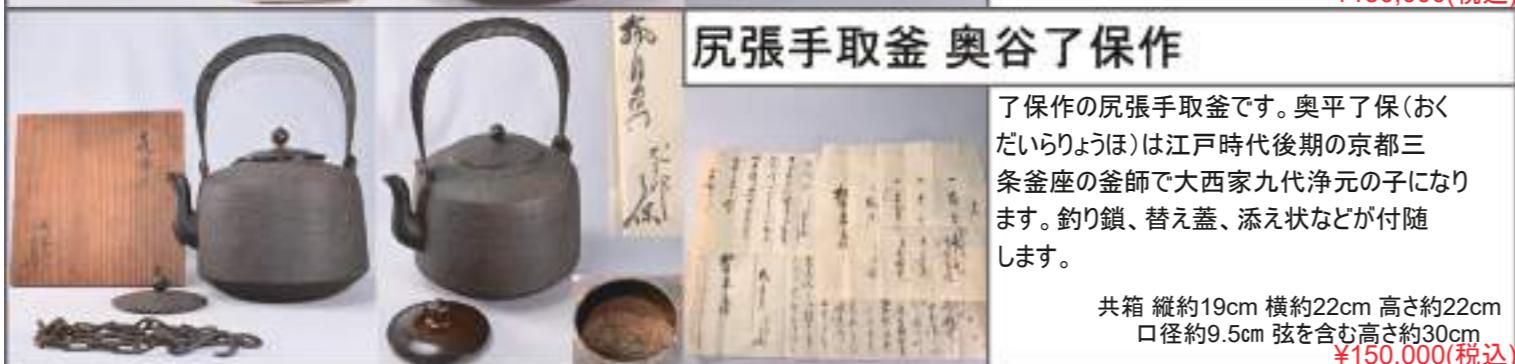
識箱 直径約23cm 高さ約22cm 口径約18cm
¥120,000(税込)



駆け馬柳地紋霰広口釜 西村道弥作

江戸初期の釜師である西村道弥作の柳に馬地紋霰広口釜で大西清右衛門の識が添えられています。柳と霰地の間を駆け抜ける馬の地紋が大変特徴的です。午年の初釜のお道具です。古道弥は砂肌の釜を得意としたとされておりこちらも下部肌地は美しい砂肌です。

識箱 直径約27cm 高さ約21cm 口径約17.5cm
¥130,000(税込)



尻張手取釜 奥谷了保作

了保作の尻張手取釜です。奥平了保(おくだいりょうほ)は江戸時代後期の京都三条金座の釜師で大西家九代淨元の子になります。釣り鎖、替え蓋、添え状などが付随します。

共箱 縦約19cm 横約22cm 高さ約22cm
口径約9.5cm 弦を含む高さ約30cm
¥150,000(税込)



金彩網栄螺水指 平安龍岳作

京焼の陶工である橋本龍岳作の金彩網栄螺水指になります。栄螺には「家が栄える」といった縁起物の意味があります。

共箱 縦約20cm 横約23cm 高さ約13.5cm
¥35,000(税込)



仁清写柳橋水指 通次阿山作

仁清写の柳橋水指で京焼の陶工である通次阿山の作となっております。蓋内流の流儀扇にも描かれる絵柄で桃山橋柳屏風がもととなっています。

共箱 直径約16cm 高さ約18.5cm
¥58,000(税込)



高取焼簾瓢水指 八仙作 青々斎箱

高取焼の簾瓢水指で13代高取八仙作になります。蓋内流13代青々斎宗匠の箱書きとなっています。

共箱 直径約16cm 高さ約18.5cm
¥60,000(税込)



膳所焼抱き桶水指 家伝の写 猪々斎箱

膳所焼の抱き桶水指で蓋内流12代猪々斎宗匠が箱書きをされており「家伝の写し」とされています。

共箱 直径約18cm 高さ約20cm
¥85,000(税込)



利休形真手桶 記三作 宗哲識

利休形の真手桶で武野紹鷗や千利休の時代に茶道具を専門に製作した「抱え塗師」の一人であった記三(きぞう)の作になります。記三は真手桶とされ数は多く作られたようです。中村宗哲の識箱。

共箱 直径約25.5cm 高さ約25cm
¥120,000(税込)



古清水末広形水指 猪々斎箱

古清水の末広水指で蓋内流12代猪々斎宗匠の箱となっております。古清水は野々村仁清以後、奥田穎川(おくだ えいせん: 1753~1811)以前のものをさし、この水指は古清水特有のひび釉をかぶり地色は純白でない粟田口と呼ばれる系統の陶器になります。

共箱 直径約20cm 高さ約21.3cm
¥200,000(税込)

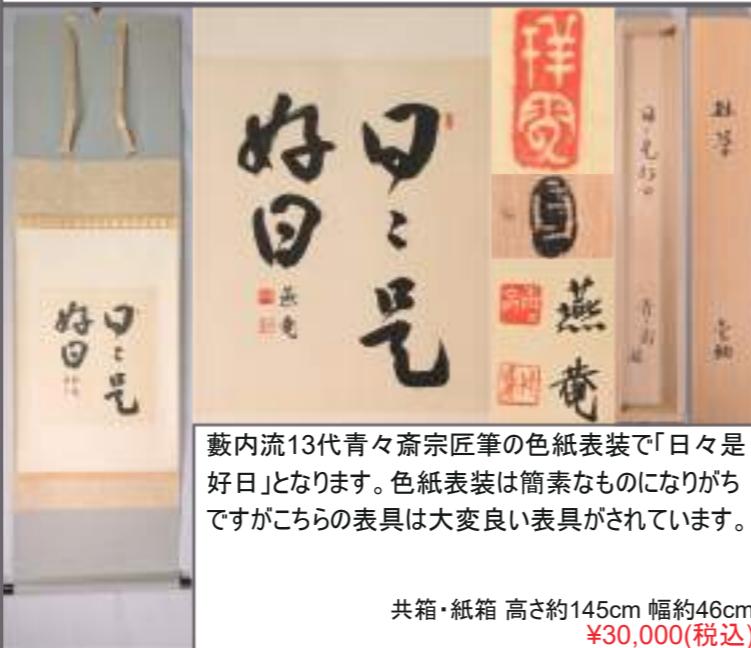
椿に梅画 須磨耐水筆



須磨耐水筆の椿に梅画になります。須磨耐水(すまないすい)は、明治から昭和にかけて活躍した大阪出身の日本画家で特に花鳥風月や季節の題材を得意としました。

桐箱 高さ約192cm 幅約33.5cm
¥20,000(税込)

「日々是好日」青々斎筆



戸内流13代青々斎宗匠筆の色紙表装で「日々是好日」となります。色紙表装は簡素なものになりますがこちらの表具は大変良い表具がされています。

共箱・紙箱 高さ約145cm 幅約46cm
¥30,000(税込)

富士山画贊 猪々斎筆



戸内流12代猪々斎宗匠筆の富士山画贊になります。贊は「秀嶺明」とあり「秀嶺(しゆうれい)」は高く美しいそびえる山を意味する言葉で富士山を指しその明かりといった言葉でしょうか。初日の出などもイメージできます。

桐箱 高さ約98cm 幅約55cm
¥58,000(税込)

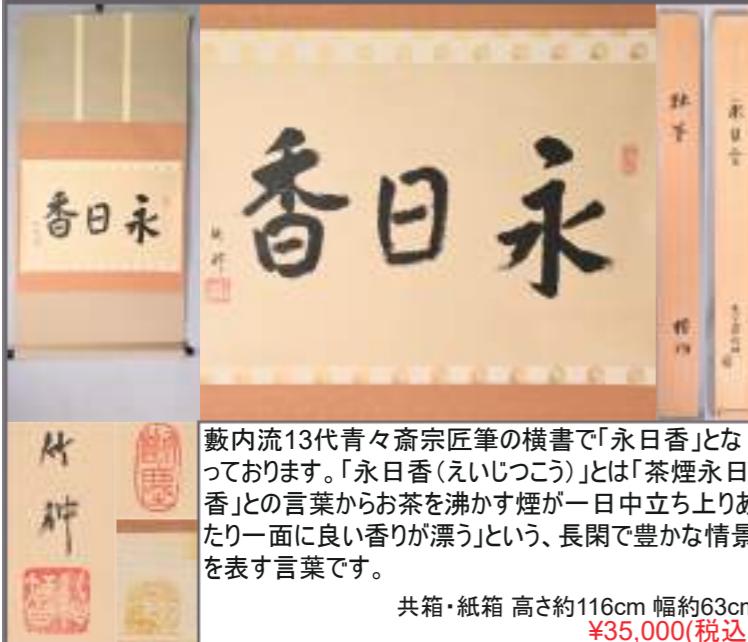
「心自閑」長谷川大真和尚筆



大徳寺三玄院玄住職である長谷川大真和尚筆の横書で「心自閑(こころおののからしづか)」となっております。

共箱 高さ約116cm 幅約60.5cm
¥50,000(税込)

「永日香」横物 青々斎筆



戸内流13代青々斎宗匠筆の横書で「永日香」となっています。「永日香(えいじつこう)」とは「茶煙永日香」との言葉からお茶を沸かす煙が一日中立ち上りあたり一面に良い香りが漂う」という、長閑で豊かな情景を表す言葉です。

共箱・紙箱 高さ約116cm 幅約63cm
¥35,000(税込)

「松影和風清」一行 林焦庵筆



戸内流11代透月斎宗匠の次男である林焦庵宗匠筆の一行で「松影和風清」となっています。松の木の影を清い風がふく、といった意味になります。

共箱 高さ約180cm 幅約37cm
¥35,000(税込)

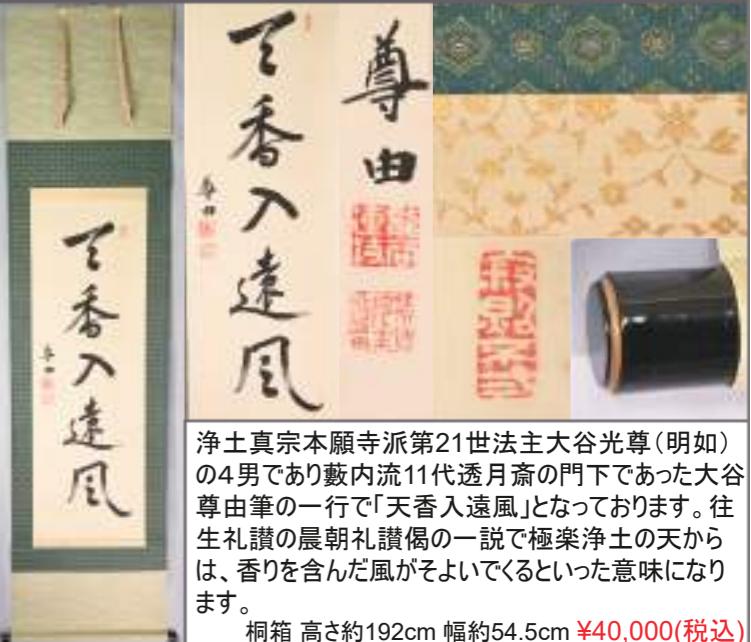
「春来草自生」一行 猪々斎筆



戸内流12代猪々斎宗匠筆の一行で「春来草自生(はるきたりておののからくさしょうず)」となっております。物事が自然の摂理に従って、然るべき時に成就する様子を表しています。

桐箱 高さ約175cm 幅約35cm
¥85,000(税込)

「天香入遠風」一行 大谷尊由筆



浄土真宗本願寺派第21世法主大谷光尊(明如)の4男であり戸内流11代透月斎の門下であった大谷尊由筆の一行で「天香入遠風」となっています。往生礼讃の晨朝礼讃偈の一説で極楽浄土の天からは、香りを含んだ風がそよいでくるといった意味になります。

桐箱 高さ約192cm 幅約54.5cm
¥40,000(税込)

「春風萬里」朱紙一行 節庵筆



戸内流9代宝林斎宗匠の次男で分家の隨竹庵4代でもある戸内節庵筆の「春風萬里」の朱紙一行になります。春風が万里の先まで吹き渡る、という意味で春の訪れをつげる新年の一行です。

共箱 高さ約167cm 幅約40.5cm
¥50,000(税込)

寒山拾得画贊 大谷尊由筆



戸内流11代透月斎宗匠の門弟で西本願寺21世法主光尊の4男である僧侶の大谷尊由筆の寒山拾得画贊となっております。「千林蕭瑟晚風涼一事同君細較量搏掃靜多難掃青首黃葉滿斜陽」とあり、林の側吹き荒ぶ風の元で掃き競っていると日が射し黄色い葉を照らしていく、といった歌のようです。絵を描いたのは尊由の絵の師である井口華秋になります。

桐箱 高さ約216cm 幅約40cm
¥140,000(税込)

水仙画贊 大谷尊由筆



浄土真宗本願寺派の僧侶である大谷尊由(心斎)筆の水仙画贊です。「蓮花太弱梅花瘦天典商量作水僊」とあり、蓮の花は弱く、梅の花は瘦せていたため天は水仙を作ったとされます。猪々斎宗匠の箱。

識箱 高さ約197cm 幅約45cm
¥88,000(税込)

「鳳舞龍吟仙妃笑」一行 透月斎筆



戸内流12代猪々斎宗匠筆の一行で「鳳舞龍吟仙妃笑」となっています。鳳が舞い、龍が吟じ、仙妃が笑うことはどれも奇跡のような出来事でめでたいことを指します。

共箱 高さ約147cm 幅約33cm
¥100,000(税込)